

グローバル人材を育成する長岡技術科学大学の挑戦

世界で最も安全な国の一つであり、学生にあらゆる面でトップクラスの設備を提供する日本は、留学生にとってますます人気の選択肢となっている。長岡技術科学大学のような教育研究機関は、イノベーション、コミュニティ、多様性の文化を育み、卒業生、日本、そして世界全体に明るい未来の実現に貢献している。



「未来を牽引するリーダーを育成し、イノベーションを生み出す大学を創ることを目指しています」

長岡技術科学大学
学長 鎌土 重晴

長岡技術科学大学は、技術と工学の分野で異文化間のコラボレーションとイノベーションを促進し、日本人の卒業生が海外で、そして留学生の卒業生が日本で成功するための強固な教育基盤を提供している。日本の高齢化による労働力不足は深刻だ。2040年には1,100万人に達すると予測されている。そんな中、長岡技術科学大学のような世界トップクラスの教育研究機関が、日本の職場で働く留学生を育てることは、称賛

に値する取組と言えるだろう。

日本全体の学生数に占める留学生の割合はわずか5%であるが、長岡技術科学大学では13%にも達する。鎌土重晴学長は、この高い数字は、グローバルな視野を持った大学づくりへの努力と、留学生を対象としたツィニング・プログラムの成功によるものと述べている。

ツィニング・プログラムでは、学生が日本語で授業を受けられるように、日本語の教育も提供している。また、実務訓練（長期インターンシップ）を受けて修士課程に進学し、修士号を取得することができる。鎌土学長は、「このプログラムを修了した留学生の65%が日本で就職し、日本企業で本格的なエンジニアとして働いています」と述べている。

実際の成功事例もある。化学業界の企業に就職し、長岡技術科学大学の教員と共同開発した製品で効率化に成功した卒業生がいる。日本に19年間在住し、永住権を取得して家族と暮らしている。また、修士課

程を修了し、電機メーカーに入社した卒業生は、日本国籍を取得して海外駐在を経験した後、母国に戻り、日本と関係のある外資系企業に就職した。

「私たちの卒業生は、日本国内だけでなく、世界中で活躍しており、次世代が日本で教育を受ける機会を育てています」と鎌土学長は述べている。

多様性が促進されると考えています。その成果は、既に実を結んでいます。海外の企業で海外実務訓練の経験を積んだ日本人の卒業生が、30代という若さで海外現地法人の社長に就任しました。彼の経験は、語学力や専門知識だけでなく、文化、習慣、考え方を理解するのにも役立ち、彼のキャリアパス



3Dプリントによる製品プロトタイプ作成

長岡技術科学大学が誇るツィニング・プログラムは、同大学と母国の大学の教員の両方から教えを受ける、まさにグローバル教育の結晶だ。これは、大学が国際的な教育研究機関との学術交流協定を活用し、協働教育プログラムを実施している代表的な例と言える。「拡大という点では、海外の大学との学術交流協定の数を増やしたいと考えています」と学長は意欲を見せる。

だが、長岡技術科学大学のグローバル化への取組は、ここにどまらない。「海外実務訓練や双方向の短期留学プログラムの実施、職員のグローバル化と専門性の向上を図るため、職員の海外研修を実施しています。こうした取組を通じて、キャンパス内のグローバル化と

に貢献しました」と学長は誇らしげに語る。

学長は、海外の教育研究機関との学術交流協定の意義についても力説する。「本学にとって、学術交流協定は単なる人的交流や共同研究のツールではありません。真の相互理解のもと、双方がより深く教育に関わることが目的なのです」これにより、高度な知識や技能に加え、文化や価値観について多様な視点を持ち、イノベーションを生み出す人材を育成できると、学長は主張する。

「将来的には、産業発展が加速する国や地域でエンジニアを育成するために協力し合えるパートナーを探しています」と学長は今後の展望を語った。



土質試験用三軸実験装置



空手の稽古（サークル活動）



高分解能SEMによる微細構造解析



Nagaoka University of Technology 50th Anniversary

Developing original
knowledge for the future

www.nagaokaut.ac.jp